

4 事業成果

別紙2-1

(1) 心をはぐくむ推進委員会

- ・ 地域・保護者・児童・教職員の代表からなる「心をはぐくむ推進委員会」を設置したことで、事業の内容がそれぞれの立場にとって、すべて有益であるように考えて、計画を進めることができた。また、それぞれ思った以上の活動ができる場合が多く、話し合いの必要性がよく理解され、事業の推進に大いに役立った。

(2) 自他を見つめ直す、道徳・エンカウンターを取り入れた授業

- ・ 授業参観日(6月、10月)に行った道徳の授業公開では、主に「人とのかかわりに関すること」(礼儀、思いやり・親切、信頼・友情、尊敬・感謝)を主題としたことで、いつも自分が体験していることや、感じていることが話し合わせ、問題が身近に感じられて、より共感できる授業となった。

(3) 宮田小支援ボランティアとの体験活動(自然体験・社会体験)

- ・ 43名という多くの宮田小支援ボランティアの方々に支えられることで、本年度も体験活動(自然体験や社会体験)をすることができた。
- ・ この関わりの中で、学校関係者だけでなく、地域の多くの人との触れ合いを通して地域の人からも、自分が大切にされていることを味わわせることができた。
- ・ おじいさんやおばあさんと触れ合うというだけで、招待状やプレゼント、お礼の手紙などを進んで用意するなど、子供たちは積極的に働きかけをしようとした。
- ・ 身近にいる人たちのお話を聞いたり、地域に生活している人たちの働く姿にふれたりすることで、多くの子供たちは驚き、感動を受けた。それが感想や、家庭での会話にも表れており、地域の方々との、直接体験やお話が指導に極めて有効であると考えられる。
- ・ 「米作り」の体験活動では、「田植え」「稲刈り」などの作業は、考えていたよりはるかに大変であることが、体験して理解できたことで、「脱穀」「餅つき・花餅作り」などの喜びが、より大きなものになった。年寄りのボランティアの方々の力強さに、感心したり、お世話になっていることに対する感謝の心がより大きくなった。
- ・ 数々の実践から、学校・家庭・地域と連携し、体験活動をすることの有用性や、人との関わり合いの中から自他を見つめることの大切さを実感することができた。このような活動を6年間を通じて、継続的に行っていけば、めざす子供たちを育成できることを確信することができた。
- ・ 11月に宮田小支援ボランティアの方々の手によって「ふるさと宮田の神と仏とその祭り」という本が出版された。本には、出版のきっかけが「宮田小学校の総合的な学習の折りに、ボランティアの方々が子供たちと一緒に地域を見学探索して歩いていて、宮田には多くの寺院や神社・神々のほこら、路傍には多くの石仏のあることを知り、それらにまつわる由来や言い伝えなどを含めて記録して後生に残すのがはじまりだった」と書かれていた。長きにわたって続けられてきた、学校・地域との連携が、別のところで花開いたことは、とても嬉しいことである。

(4) 児童会活動による仲間づくり

(ア) ペア活動

様々な「ペア活動」を行い、それぞれに、子供たち同士の交流が図れたと思われる。

中でも、代表委員会が企画した「ペア遊び」は、特に子供たちに人気があり、どちらの学年もが大変楽しみにしている行事となった。本年度は6月と1月の年2回であったが、「おんぶおにごっこ」や「手つなぎ大縄」など、できるだけペアの子ども同士に触れ合う機会が多い遊びを、高学年の子を中心に、ペア学級毎に考えて実行させたことにより、思いやりをもって低学年に接していこうという姿勢につながった。また、低学年は、活動をリードし、いっしょに遊んでくれる上級生に信頼感を抱くようになっていった。

(イ) 集会活動

「1年生を迎える会」、「6年生を送る会」、「歌声集会」など、全校で取り組む集会や、「藤まつり激励会」、「陸上運動記録会選手激励会」など、クラブや学年を主体に取り組む集会と触れ合う相手や内容をいろいろ変えながら異学年交流活動を進めていった。これらの集会を通して、準備を行ったそれぞれの学年が集会を支えて成功させたという満足感を味わい、主役になった学年は、集会を支えた多くの学年に感謝の気持ちを持つことができるようになった。

(ウ) かがやき集会

「自分づくり・仲間づくり」の活動を支えていただいた、数多くのボランティアの方々との自然体験や社会体験活動を振り返る、「かがやき集会」を行った。自分たちの取組を振り返り、他学年の活動を知ることで、次年度に向けての見通しを持つこともできたように思われた。また、いろいろな体験活動に協力し、支えてくださった地域のボランティアの方々に、心から感謝の気持ちを伝えることができ、子供たちも、ボランティアの方々も、共に交流を続けたいと、強く思える心に残る集会となった。

(5) 家庭・地域への広報活動

(ア) ホームページ

ホームページを開設するに当たって、夏休み中に現職教育を開き、作成方法などの研修会を行い、職員間で共通理解を図ったことで、どの学年も、それぞれのできごとを素早くホームページにアップでき、地域に新鮮な情報を発信することができた。保護者や地域の方々からは、「学校で取り組んでいる活動の内容がよく理解できた」「子供の様子がよく分かるので、見るのがとても楽しみ」という声が聞かれた。

(イ) 自分づくり・仲間づくりだより

「自分づくり・仲間づくりだより」は、毎月1度の発行であったが、各学年の行事や体験活動、授業の様子などを紹介し、学校の活動が、家庭・地域に、よく伝わるようになり、保護者に好評であった。さらに、行事等に来校された来賓にも、普段はなかなか見ることのできない子供たちの活動の様子がよく分かると、大変好評であった。

(ウ) 校内掲示

各教室の背面掲示板にはった「自分づくり・仲間づくりだより」は、子供たちが自分たちの活動の様子を確かめるとともに、他学年の活動も見ることができた。将来の活動に対する希望が膨らんだり、過去の経験と比較したりするような会話が聞かれ、活動への関心が高められたようである。

また、各脱履に設置してある学年・児童会コーナーを、学校を訪れた保護者が熱心に見入る場面が多く見られ、「自分づくり・仲間づくり」の各学年や児童会の取組の豊富さを、保護者に効果的に伝えられたと考えられる。